

Fast life, Slow life

村越 真

12月11日

午前中名古屋でWOCのワーキングに出席した後、大阪の地理教育研究会の講演へ。学校でのオリエンテーリングの実践、地図を使った授業実践などを紹介した。今、地理が必修内容から削られるという危惧が地図・地理関係者に広がっている。紹介者の帝国書院の担当者が「ああいうマニアックな人が多いので、地理が敬遠される傾向にあるんですね」と、コメント。ひょっとすると、彼らの熱心さこそが、地理が敬遠され、必修科目から減らされている大きな原因なのかもしれない。夜岡崎まで移動。

12月14日

船橋理事と、JOA副会長の長谷川氏を訪れる。鈴木専務理事が任期中に逝去されて以来の役員空席状態にも終止符を打たなければ、これはJOAの危機でもあるが、同時に日本のオリエンテーリング界のチャンスでもある。

昼から研究室に来ていた宮内に、車でピックアップしてもらって帰宅。「村越さんの研究室のあたりを歩いていると、みんな『こいつは、村越さんの仲間だな』って分かるみたいなんですよ。」という。僕らにはアジア人の違いが分かるが、ヨーロッパ人にはみんな「アジア人」としか見えないのと同じことなのかも。

12月17日

前日に集中授業を終えて、年内の授業は終了。9時半に静岡駅で小山さんと西井さんと待ち合わせて、ディレクター講習のため岡崎に向かう。コースプランの演習+講義は非常に好評。18日は野外活動全般の講義を外部の講師にしてもらい、19日はトレイルの実習やJOA現状についてのセミナー。

12月22日

台湾へ移動。夕食をとりながら、連盟の会長のペン氏らと会談およびワールドゲームズについて質疑応答。台湾 高雄 は2009年のワールドゲームズの開催が決まっている。台湾でこのような国際的なマルチスポーツ大会が行われるようになったことは興味深い。政府からスポーツ団体へのサポートも増えているという。こんなところにも、スポーツは国際政治の道具という感じがす



アジアシティー選手権(クラシック)香港の狐狸叫にて

る。

12月23日

香港に移動。「忙しいはずだから来るな」と言っておいたパトリックが迎えに来ていた。「本当は明日あさっては忙しいはずだったのだが、発注していたパンチ台が来なかったの、暇になっちゃんだよ」。その分、大会前日1日でパンチ台を全部設置して、給水のための200lの水を2kmほど運びあげなくてはならないそうだ。ホテルでパトリックと軽い夕食。

12月24日

香港は、知る人ぞ知る、カントリーパークの国。国土の30%近くが自然公園なのだ。ハイキングトレイルも充実しており、九龍半島を貫く100kmにおよぶマクレホーストレイルは有名だ。その一部が通過する金山カントリーパークのトレイルを走りに行く。快晴ではなかったが、暑いくらいの天気だった。高層ビル群を眺めながらの約16kmのトレイルラン。最近長い距離を走っていないせいか、たったの90分でふらふらだった。

12月25日

アジアシティー選手権のスプリント競技がイベントセンターであるYMCAの敷地

で1:2,000の地図を使って行われた。その後、アジア地区のオリエンテーリングの発展に関するオープン・フォーラムが開催され、参加した各国の発表があった。ほとんどオリエンテーリングの様子が伝わってこないマレーシアや台湾でもかなりのパークマップができていた。特に中国では、地図委員会が作られ、その委員長の張氏はほとんどフルタイムと思えるようなマッピング活動をしていた。また学生選手権が非常に盛んであった。

香港は中国返還時には連盟の存続にさえ危機感を抱いていたが、現在は多様な試みをおこない、かなりアクティブである。講演した会長の金氏は「うちの子供たちはオリエンテーリングをやっていないのだが・・・」と前置きして、家族を志向したオリエンテーリングの普及活動の様子や、自然公園局と共同で行っているパーマネントコースを紹介した。香港では6つの自然公園にPCがあり、誰でも無料で利用できるが地図はウェブでダウンロードでき、スポンサーもついていてということだった。

僕も、最近の日本でのスクールO取り組みとハイカーに対する地図読み講習の様子をプレゼンテーションした。関心を示した聴衆も多く、プレゼンテーションのファイ

ルが欲しいと何人もから申し出を受けた。

12月26日

孤狸叫でのロングディスタンス。1996年のAPOCが開催されたこの半島は、海鮮料理で有名な西貢（さいこん）からさらにバスで30分ほどいって、そのあとフェリーで15分ほど湾をこえた場所だ。ここにくるたびに、「昔は日本にもこんなふうに海路でないとはどりつけない僻地の集落がありましたよ」という高橋厚さんの言葉を思い出す。

ぼくのウィニングタイムが59分。2位の香港選手が63分。WREの際には日本にも来ている選手だ。僕も遅くなったが、香港選手も強くなっている。彼らは、ペローラの作った白い森の地図で日本のWOCに向けたトレーニングもしているという。その地図を見せてもらったが、「日本のどこかだ」といっても分からないような地形と植生だった。

この日は夕方から各国連盟の代表が集まって、今後のアジア地区の発展についての会議もたれた。この会議のもっとも主要な話題は、アジア地区連盟の結成である。そのこと自体には時期尚早という結論が出されたが、アジア地区での発展を担う組織を立ち上げるためのワーキンググループの結成は決まった。

オリエンテーリング発展のための委員会が（再度）作られたといっても、オリエンテーリング発展に対するIOFの動きは決してスピーディーなものではない。アジアの一員として、ヨーロッパ外のことに対してIOFの関心と意識が低いのではないかと思う時さえある。限られた資源とマンパワーの中でアジアの中でもアクティブな連盟が集まって、自分たち自身の発展についてイニシアティブを取り出したことは、アジアだけでなく、世界のオリエンテーリングの発展に寄与するはずだ。



アジア地区発展のための会議にて。中央は議長の高橋厚、左はペラ仔香港会長、右はおなじみペローラ。

12月28-30日

ジュニア合宿。大学1,2年生やスタッフを含めて80人にもなる大所帯だったが、

さしたる混乱もなく、あっけないほどスムーズに進んだ。2日は雨で、さすがにトレーニングするのがはばかれる天候だった。即興で作った地図あてゲームなどで午前中を過ごす。外で練習することも重要だが、室内でそれを振り返ったり、部分的なスキルを快適な室内でじっくり考えることも、外での練習に負けず劣らず重要だ。天気もいいと、わざわざトレインまで来て室内で練習する気にはならないが、天気が悪いといい口実ができる。最終日に病院で縫う怪我が一人だが、それ以外は特にトラブルもなし。香港以来の風邪が一進一退だが、なんとか寝込みもせずに終えた。

富士のファミレスで、利佳ちゃんの今後のトレーニングプランについての相談を受ける。隣の花屋で、誕生日の花束をプレゼント。

1月1日

1年の計は元旦にありなんてナイーブなことは思わないにしても、自由に使える時間をどう使うかは、近い将来の行動方針を如実に反映する。昨日の雪はやんだが、武蔵野の雑木林はすっかり雪に覆われていた。綾を連れ出し平林寺の周りを散歩する。

午後は、自分の実家の品川まで移動。高円寺で車を降りてもらい、ジョグで品川まで。途中かなり気持ちよく走れたが、最後は右ひざに軽い痛み。

1月3日

刈谷でWOCの全体会議。岡崎に泊まって翌日は地図調査。真冬だというのに、さして寒さを感じず、気持ちよく終了。

1月8日

全日本リレー開会式のため、東松山へ。いまや大会会場は、自己表現の場というよりも情報交換の場となった。会長も副会長も不在のJOAをどうするか意見交換をより多くの人としたい。

夕方は、宿舎のそばにある吉見百穴周辺をジョグ。小学4年生のころに、各県の不思議について書かれた四十数冊の本を片端から読んだが、なぜか埼玉についてはよく覚えていた。その中に吉見百穴があったことを思い出した。

1月9日

全日本リレー。昨年のリレーでトップタイムと10%少々離れたときは、「今は絶不調だから」で自分を納得させた。だいぶ調子が戻ったと思った今年でも10%離されている。この結果にはいささかショック。



全日本リレー皆勤の面々。
左から稲葉英雄、田島利佳、志村聡子

1月10日

4月に出版するトレイルランニングの本の撮影会。メインの執筆者の鍋木さんは、富士登山競争に2002年3年と2連覇を飾っている日本を代表するトレイルランナーだ。選手強化に他分野のアスリートを求めたのが縁で、一緒にトレイルランニングの本を出すことになった。原稿もほぼ完成したので、この日の撮影会となった。

編集の太田さんが手配してくれたカメラマンの小川さんは、スポーツ写真も手がけているだけあって、アウトドアの仕事には手馴れている上に、微妙な動きに対する注文にも的確に添えてくれる。鍋木さん自身も何度もNGを出して細かいアングルの注文を出す。撮影は9時に始まり、15時まで続いた。



カメラマンにアングルを指示する鍋木さん。

1月11日

神戸で火山に関する国際ワークショップ。同僚の火山学者とおこなった防災地図の読み取り実験の成果を発表する。火山のメカニズムを解明し、その爆発を予知するハードサイエンスはもちろん重要なのだが、それを一般市民に正確で分かりやすく伝えることもそれと同じくらい社会的には重要なことだ。往々にして、この部分が科学者に

見落とされている。科学的成果の伝達がもっと改善される必要がある。それが彼の常々の主張で、そこで読図についての心理学的研究を行っている僕が研究協力者として選ばれたわけだ。

もちろんほとんどのセッションとポスターは、火山爆発のメカニズムに関するものである。その詳細は英語だったせいもあってちんぷんかんぷんに等しかったが、唯一分かったことは、実は地面の下で起こっていることで、確実にわかっていることはほとんどないということだ。噴出物の量やタイミングの地道なデータを積み重ねてようやく、その背後にある火山の構造が推測できる。それも推測に過ぎない。火山岩の顕微鏡写真を掲載したポスターの前で、日米の研究者がその写真に書き込みを入れながら、なにやら話している。15分後に再びそのポスターの前にやってきたら、二人は同じ姿で、同じ写真についてまた議論している最中だった。異分野としてほとんど居場所がなく、自分の責任在席時間以外はファミレスでずっとワープロを打っている一日だったが、その光景だけは見てよかったと思った。

1月14日

JOA で今後自分がどんな役割を担っていくかは、以前霧の中だが、それがどのようなポジションであろうと、何かをしていくことには間違いない。アイデアはいくらでもあるのだが、時間がない。それは研究についても言えることで、浮かんできたアイデアは実行されることなく、水泡のように消えていく。

ここ1年、頭を使うことを体が拒否しているうちは気にならなかったが、頭調が復活すると、生まれたせつかくのアイデアが形にならないことに対する残念な気持ちが膨らんできた。来年度になったら、人を雇ってもいいかな、そう思っていた時、昨年の卒業生からメールが来た。夏ごろから何度か仕事の愚痴を聞いていたが、その彼女がいよいよ辞める決心をしたという。静岡にいる彼氏との結婚も考えている。「将来のことを考えると、やっぱり社会保障もちゃんとした仕事にはつきたい、養護学校の教員かな、それともやっぱり公務員でしようか」という相談であった。

さんざん悩んだ挙句、自分のところで働く気がないかと声をかけた。将来的な計画もさることながら、4月から8月までは修羅場が訪れる。WOC で中心的に働く新帯や松久も、このままではもたないだろう。「こんな人材がいるんだけど・・・」と彼らに相談すると、ぜひ会いたいということになって、この日のデートは突然「重役」面接になり、3人の「重役」がやってきた。

1月16日

昨日より調査。雨は調査後半の15時ごろから降り始めた雨は夜半まで続いたが、起きたら快晴だった。天気がよく、冷え込みが激しい。途中森林作業の地元のおじさんと立ち話。渉外が行き届いているせいで、森の中で会う人のたいいていが世界選手権のことを分かっている。現場での作業のつらさは共通のものなので、話が弾む。

1月18日

大きな仕事は夢であるとともに、ストレスの源でもある。自分ではワクワクしているつもりだが、周囲との作業ペースの違いにいらだつこともある。山積する仕事、意見の食い違い。この週はそれが最高潮に達した週だった。

1月21日

富士でディレクター2級の講習会。受講者5名は、対象となるインストラクターの数が約300であることを考えても、やや拍子はずれ。

1月24日

苛立ちの一因だった人物からメールが届いた。彼が感じている焦燥感、悔しさ、その素直な発露を読んでいると、ここ数日、さまざまな人間関係の中で感じていた苛立ちが引いていくのが自分でも分かった。自分がいらだっていたのは、周囲との関係よりも、むしろ、それをうまく処理できない自分への苛立ちだったのだ。自分自身がその壁を乗り越えていけなければ、後半生はないな。「お互いslow life なんていいながら、生き急いでいるのかもかもしれないな。」という言葉が身に染みる。

1月29日

地域スポーツ指導者との交流事業。16時に終了して、作手に向かう。マップと最終段階のミーティング。世界選手権というオリエンテーリング界最大の行事に地図調査者としてかわれるのも、たったあと半年なのだ。その後、野外教育センターでの運営手順書合宿に参加。

2月5日

午前中は推薦入試。午後、同僚が主宰しているNPO「卓球交流会」のメンタルマネージメントの講師を務める。遠くは大阪からも参加者があった。自分のこれまでの最高のパフォーマンスについて分析する「ピークパフォーマンス分析」では、生き生きとグループで話をする姿が印象的。夜、岡崎へ移動。

2月6日

地図調査。週日の雪で10cmの積雪。足先も手先も冷たいままだった一日。急斜面ではかどらず。

(村越 真)

イチオシイベント 第27回東大OLK大会 2005年6月5日(日)

「峠のまち松井田」remake

(東大OLK 三矢麻衣)

第27回東大OLK大会は、群馬県は碓氷郡松井田町の「峠のまち松井田」をリメイクして行きます。

交通のアクセスは比較的良く、JR信越本線で高崎から約30分、終点横川駅から徒歩20分で会場に着くことが出来ます。

碓氷の関所から発展し、かつての信越本線・横川軽井沢間の碓氷峠越え電車でも有名なこの横川は、明治18年創業日本最古の駅弁屋おぎのやがあることでも知られています。大会の帰りには、ぜひ横川の駅弁「峠の釜飯」をどうぞ。

オリエンテーリングに関することを言えば、当然GPSを導入して地図の精度の向上に努めています。

毎年、東大OLK大会のテレインの例にもれず、「ごつい」テレインでのクラシックの大会となって(しまつて)いますが、テレイン内は通行しやすい林も多く、オリエンテーリングそのものは楽しんでいただけること請け合いです。

クラス分けについては、昨年実施した年齢別選手権は取りやめ、実力に合わせたクラス選択をし易くしてあります。もちろんどのクラスでも楽しめるコース設定を提供しますので、是非ご自分の実力に応じたクラスをお選び下さい!

また、今回は速報にも力を入れます。ゴール直後の速報配布や、会場でのラップ解析掲示を予定していますので、ご期待下さい。

それでは、6月5日は横川で皆さんをお待ちしています



テレインから見える妙義山